

ほのぼの

第45号

平成29年

3月

発行

信行寺門信徒会

神戸市須磨区戎町1-2-3

TEL.078-732-5209

み佛を
呼ぶわが
聲身は
みほまけの
我を
喚びます
み祭り
けり

心に響くみ仏の声

住職

大相撲初場所で大関稀勢の里が初優勝し、第七十三代横綱に昇進しました。十九年ぶりの日本出身の横綱誕生になるということで、新横綱誕生に相撲ファンが盛り上がったのはいうまでもありません。

茨城県出身の新横綱は、初土俵以来、十五年間で休場した場所は一度だけだそうです。病気やケガをしないように体調管理に気をつけて稽古に励んだのでしょうか。また、他の大関は優勝経験があるのに自分にはない、何回も優勝に近づいておりながら優勝することができなかった悔しさも内心にあったにちがいありません。しかし、落ち込まず、なげやりにならなかったのはスバラシイこととです。「腐らず我慢して本当によかった」という稀勢の里のことは高い志がうかがわれます。ファンの期待に応えようと気力をこめて稽古に稽古を重ねた努力が見事に大輪の花を咲かせたといえます。

しかし、人間の努力には限界があります。この世は努力すればなんでも解決できるとは限らない。それがこの

世の現実です。

私たちは二つの世界を生きているようです。「努力の世界」と「努力の及ばない世界」です。何事をするにも努力することが肝要であることは誰でも知っていることです。努力しないと思うような結果は期待できませんから。さらに、それと同時に、努力の全く及ばない世界も生きています。「老い」は、どんなに努力しても止めることはできません。「死ぬこと」も同様です。死にたくなくても寿命が尽きます。私たちの人生は、どんなに努力しても避けることのできないものを背負って生きていることをお釈迦様は「人生は苦である。だから苦を乗り越える道をもとめなさい」とお示しくださっています。

稀勢の里の出身地の茨城県は、常陸の国と呼ばれていました。親鸞聖人はこの地に四十歳代から六十歳代にかけて、二十年ほどご家族とともに滞在されてきました。常陸の国稲田というところを中心にして関東地方に浄土真宗の教えを広められた土地です。

その時山伏の弁円さんの帰依をうけた事が伝わっております。山伏の教えというのは、山伏本人のもっている靈力によって人々の悩み事を解決しようとしめます。「護摩」を焚いて祈ったり「祈祷」したりして、人々を救おうとする教えです。これに対して親鸞聖人の説かれる浄土真宗はこれを拒否する教えです。

聖人が来られるまでは、稲田の草庵に近い山、板敷山を根城にして、この地方に勢力をもっていたのが弁円を頭領とする山伏たちでした。しかし、聖人の教えが広まるにつれて、弁円の信者がだんだん離れていきました。その原因が親鸞聖人にあると思ひ込み、怨みをもった弁円は、あるうことか聖人を殺害しようという計画し付け狙いますが、捕まらない。業を煮やした弁円はついに聖人の住む稲田の草庵に押しかけます。

そこで、一人でも多くお浄土に生まれてもらおうという高い志をもって、お念仏の仏道を説かれていた聖人のお姿に接し、阿弥陀様の深く大きいお慈悲の心を知らされたのです。怨みをいただき殺そうとま

で思った自分自身の行動が恥ずかしくなり、持っていた弓矢や刀を捨て聖人の弟子の一人になりました。そして聖人より「明法」という法名をいただいています。

山は山 道はむかしに 変わらねど
変わりはてたる わが心かな

と、弁円の名を明法と改めた心境を明かしておられます。いつの時代でも人間は、欲や腹立ち・ねたみの心から離れられません。これが苦悩の根本的原因であることも知らずに生きている「私」が今ここにいます。だから如来様の大悲心からお念仏の道が開かれてあると聖人は教えてくださいます。

み仏を 呼ぶ わが声は
み仏の 我を喚びます み声なりけり

私の称えるままが、阿弥陀様が私に「気づけよ、目を覚ませよ」と呼び続けておられる姿です。私をつみこんで離さない姿です。

南無阿弥陀仏

いのちの根

副住職 恵悟

大原三千院の近くに実光院という小さなお寺があります。そこには不断桜という珍しい桜の木があります。桜というと春、三月の終わりから四月にかけて花が咲くものと思っていたのですが、この桜は秋から四月にかけて冬を越してずっと絶え間なく花が咲くらしいのです。だから不断桜と名付けられています。

寒い冬の京都、しかも雪の残った庭園でひっそり咲く桜の花を見たときは不思議な感覚でした。蒼生した老木の垂れ下がる枝につく小さな花とつぼみを見ながら、この老木はどれほどの長い年月、こうして花を咲かせ続けてきたのだろうと思いました。

相田みつをさんの詩に

「美しい花を見た

美しい花は美しい枝についでいる

美しい枝は美しい幹についている

美しい幹は美しい根っこがささえている

にちがいない」

というのがあります。なるほど、この美しい花を咲かせる「いのちの根」があるのですね。

雪と苔に覆われたこの地面の下にしっかりと根をはっているからこそ、この老木は今、この美しい花を咲かせているのです。

またこういう詩もあります。

「その根っこは見えない

その見えないところに大事な点がある」

目に見えないけれども、それによって支えられている世界。私たち人間もそれぞれの人生のいとなみという、いのちの花を咲かせます。しかし、その花は自分の力だけで咲くものではありません。自分の周りの多くの人たちや、自分では気づきもしないような様々なご縁によって支えられています。そして目には見えませんが、私の「いのちの根」といってもいいような存在、如来様がつねに支えてくださっています。その「いのちの根」は生と死をそのまま包み込むような、大慈悲の真実の願いがはたらく世界です。

そういう世界を浄土というのです。

新春初法座

井上 嘉子

「良かったら新春の初法座のお手伝いをしてもらえない？」

太子堂での副住職による法話会の後、副住職の奥様である悦子さんから声をかけていただきました。母がプロテスタントで私も幼い頃は母と共に日曜礼拝に通っていましたが、祖母や母の告別式も教会でしたので「お寺さんにお参りする」ということは何か特別のことのように感じていました。また本堂はいつも外から眺めているばかりで「中はどうなっているの？」とただただ興味津々で、「私でよければ」と即答していましたが、打ち合わせも兼ねてお参りさせていただいた報恩講法要では本堂のあまりの立派さ



に驚き、「こんな興味本位で良いのだろうか」と早くも不安になってしまいました。

年が明けて一月五日、礼拝堂の大きな阿弥陀様が見守る中、お世話の方々をご用意くださったご馳走を皆さんと盛り付けました。「馳走」とは「走り回る」と「を意味し、簡単に食材が手に入らなかつた時代、客人をもてなすために馬を走らせ食材を集めたことが語源になっているそうです。この日のお食事は新年のお祝いであり、お参りに来られた方をもてなし一緒に食卓を囲めることへの、まさに感謝のご馳走でした。

今回初めてお手伝いさせていただきましたが、田舎をもたず、最近では親戚の集まりもない私にとつては皆さんと一緒にご馳走を盛り付け、お参りし、お喋りしながら食卓を囲むという時間は懐かしくも新鮮でした。ありがとうございます。



「本年もよろしくお願いいたします」
お陰さまで和やかな祝宴となり、門信徒の皆様のお力添えに感謝いたします。持ち寄りの御馳走と美味しいお酒を頂きながら、辻道俊彦さんが親鸞さまの詩吟を披露して下さいました。中学三年生の金出萌さんと米田光輪さんは、キロロの『未来へ』をウクレレで歌ってくれました。礼拝堂の阿弥陀様のお膝元で賑やかに思い出話に花も咲いておりました。

来年も益々、皆様の参加をお待ちしております。

職人技

空 早苗

ご本山念仏奉仕団に平成二十二年より毎年参加しています。第一回目は緊張して皆さんの後について奉仕させていただくだけでしたが、第二回目になると何となく要領がつかめ、心にもゆとりが出来、周りをみる事が出来るようになりました。

皆さんと御影堂の廊下を拭き掃除している時、板の間に新しい木で補修されている箇所を見つけました。よく見ると「お椀」の型をしています。「あれ！」と思い他の箇所も注意して拭いていると「魚」もありました。それから見つけるのが何となく楽しくなり、翌年も探しながら拭いています。

雨風や沢山の参拝者の重みで板が傷んでも総入れ



替えるのではなく、昔からのものを大切に残して傷んだ箇所だけを補修しています。さらに職人さんはただ穴埋めをするのではなく、遊び心をもって色々な型を作って補修しています。そんな職人技に感心しました。

皆さんも参拝された折には是非廊下で何の型があるか探してみてください。



日頃の疑問を考えよう

Q 年末年始に気になったことがあるのですが、教えてください。喪中はがきは出した方がよいのですか？

A 忌服というものは、「忌」という死を穢れとみなして忌むということですから、本来仏教的なことではありません。その意味からいうと、全く気にせず、年賀状を出しても構わないということになります。ただ、地域によつては、風習として喪中をやっている場合もあります。喪中はがきとはいいいませんが、年賀欠礼はがきを出したりします。もちろん出さなくても構いません。

Q そうだったんですね。年賀欠礼はがきを出すときに、気を付けることはありますか？

A 「喪中」と書くのは、浄土真宗の考えから間違いです。他に使わない言葉として、「永遠の別れ・旅立つ・草葉の陰・冥福を祈る・霊前・安らかにお眠りください」などがあります。

Q うっかり使ってしまったような、使うべきでない言葉があるんですね。手本の例文を教えてください。

A 「今年も残すところわずかとなり、お忙しくお過ごしのことと思います。さて、〇月に父〇〇が、

往生いたしました。新年のご挨拶を失礼させていただきました。私達家族にとつては、寂しい年でしたが、仏縁を深くする年でもありました。

ご一同様には、ご自愛の上、新しい年をお迎えくださいますようお願いいたします。」等どうでしょうか。また、年賀状をいただいた場合は、寒中見舞いとして、返事する方法もありますね。

Q 最後に正月、鏡餅を仏壇に供えるものですか？

A 鏡餅とは、昔の鏡に由来します。昔の鏡というのは丸い形をした銅鏡ですが、神体としての鏡をお餅であらわしたそうです。譲り葉・昆布・串柿などもそれぞれ意味があります。仏壇には、お供えの餅（米）として考えるべきものでしょう。



信行寺行事予定とご案内

春の彼岸法要

三月二十五日（土） 赤山 得成先生

*法話の後、お齋を一緒に

二十六日（日） 住職

両日とも午後二時より

第十六回 門信徒会総会

四月二十二日（土）

午後二時より

おつとめ・総会・法話

*門信徒の皆様、多くの参加をお待ちしております。

花まつり

四月六日（木） 午前十時より

*甘茶・灌仏・献花献灯など、いたやど保育園の園児さん達と一緒に楽しい時間を過ごしましょう。

写経の納経も行います。当日来れない方は、事前にお持ちください。

編集後記

表紙の「書」は信行寺の坊守が書かれたものです。

み仏の聲が聴こえて来るようですね。

坊守は長年「書」の勉強をされています。その作品が信行寺の二階、三階のいろんな処に飾られています。大きな迫力のある字、やさしい字、抽象的な字がいろんな書体で書かれています。皆さんもお参りに来られた時、ゆっくり「坊守の書」の深さ美しさを味わってみてください。

一月に副住職の秀爾さん、友美さんご夫妻に

『一期(いちご)』君が無事誕生されました。元気なお顔を見られる日が楽しみです。



多田 清子

